

受講者からの質問と回答【東京会場】

1月20日に東京で開催いたしました wallstat マスター登録講習会において、受講された皆様にアンケートにご協力いただきました。

その中でご質問として上がっていました記述（一部）について、以下にご回答を掲載いたします。

なお、質問と回答については、情報交換サポートサイト FAQ にも掲載いたします。

注）回答内にあるページ数はユーザーズマニュアルのページ数となります。ご参照ください。

〔wallstat の入力〕

Q オーバーハング、ベランダ・出窓の入力方法

A 通常の梁入力で、片持ち梁になるよう入力していただければオーバーハングやベランダを再現することができます。出窓は構造上、正確に入力する必要はありません。

Q バルコニー手摺部分（笠木）や開口部位の窓台・窓まぐさの入力方法

A P.54「2.2 基準線の追加」にて、Z 軸に通り芯を追加することで窓台や窓まぐさを入力することができます。（P.60 参照）

Q 母屋下がりの入力について

A 原則、屋根は陸屋根として入力します。一般的な住宅の場合は、壁高さをそろえた陸屋根として入力して問題ありません。

Q 登り梁の入力方法

A 複雑な形状の場合は **origin** にて入力をお勧めします。

studio では、屋根は原則陸屋根として入力しますが、P.61「2.5 傾斜構面の入力」のようなシンプルな形状なら登り梁は入力可能です。

Q 不整形な建物や1つの階に高低差がある時の入力法

A P.54「2.2 基準線の追加」にて Z 軸に通り芯を追加することでスキップフロアのような入力を行うことができます。

ただし、建物重量は各階（1階床、2階床、屋根レベルの重量）の重量となり、スキップフロアのある層には重量は反映されません。

スキップフロアの床面積の割合が小さい場合は影響は少ないですが、大きい場合は、初めからスキップフロアの層を階として見込み、3～4階建てとして入力する方法もあります。

Q トラス構造（山形・並行弦等）対応

A トラス構造は origin ではモデル化可能ですが、基本的には鉛直荷重を支持するトラス構造が多いかと思しますので、その場合は地震力の検討は等価な単純梁で行うことで良いかと思します。

〔地震波について〕

Q 地震波の作成方法

A ユーザーズマニュアルの3章をご参照ください。

〔その他〕

Q 重量や面積の割増程度はどのくらいか？ 大きい方が安全側の計算にはなるが、どのくらい増すのが妥当か。

A 設計用の重量には安全率が見込まれていますので、構造計算用重量や wallstat の簡易重量設定で計算する重量には十分な安全率が見込まれています。

以上